

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400606	事業の開始年月日	令和1年5月1日
		指定年月日	令和1年5月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ株式会社川崎稲田堤		
所在地	(〒214 -0008) 神奈川県川崎市多摩区菅北浦3-3-18		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名 ユニット数 3ユニット
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	k-inadazutsumi@mimoza-care.jp
----------	-------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念であるその人らしさを大切に支援する。「食べる」ことは一つの楽しみとして、季節の食を通した生きがいを提供。また、食育の一つとして季節の植物を植え、スタッフと共に植物に触れ合い、癒される事によりストレスが軽減され、精神面の安定にもつなげている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月30日	評価機関 評価決定日	令和3年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇内部研修等による職員の育成 事業所内部研修として毎月行う30分研修の年間計画をたて、認知症の理解、感染症や食中毒防止、プライバシー保護や接遇、非常時対応、コンプライアンス、身体拘束および虐待防止等について学び、ケアに反映している。本社研修や外部研修について情報提供し、職員の積極的な参加を勧めている。 ◇コロナ禍における家族の意見・要望の把握と情報の提供 ・利用者の生活状況の写真を含めて毎月家族に「生活報告書」を郵送報告し、電話連絡の際や制限下ではあるが家族の面会時、家族の要望を把握している。家族から得た要望に可能な限り対応している。 【事業所が工夫している点】 ◇コロナ禍で外出や外出の制限下での利用者満足、体調維持へ対応 利用者の食の好みを把握し、旬の食材を中心に調達した食材を調理して提供している。誕生日やおやつレクの際に利用者の好きな物を準備し、楽しんでもらっている。外出がままならないが、外気浴や事業所内で朝のラジオ体操を奨励し、希望者にはペダル漕ぎを実施して体調維持に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	ハナミズキ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・施設の理念を掲示し、職場30分研修のテーマとして取り入れたり、社内総合研修所主催の研修への参加を促したり、年に1回、全社を挙げて事例ケア発表と題し、自施設のケアを振り返り、他施設の事例・取組みから学ぶ機会がある。	・理念は「その人を知り支援する」「思いやりを持ってチームケアを行う」とし、事務所に掲示している。 ・年度初めの内部研修、毎月の全体会議等で理念について振り返り、日々のケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染症対策により、自治会や近隣の行事への参加等は、自粛している。	・自治会に加入しているが、コロナ禍で地域行事等は自粛中であり参加の機会はない。 ・コロナ禍以前は併設の地域交流室で喫茶ミモザや認知症サポーター養成講座を開催した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課・地域包括・自治会・民生委員・ご家族の代表の方を招き、ご利用者の状況や行事・事故・今後の予定等を報告し、情報共有、意見交換をしていたが、コロナ禍の為、停止中。電話や、封書での意見交換を行っている。	・自治会長、民生委員、市職員や地域包括支援センターの職員を運営推進会議構成員としている。 ・コロナ禍の現在は書面で事業所の運営状況を報告し、電話を含めて意見交換に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ禍のため、リモートにて交流している。	・区の高齢・障害課とは、家族に代わり認定更新の手続きを行う等、密に連携している。 ・コロナ禍以前はグループホーム連絡会に参加して行政情報等を得ていた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解をしている。基本的な生活を守るケアに努め、ご入居者様の状態を適切に把握し身体拘束ゼロに努めている。	・「身体拘束廃止」の指針を策定して、3か月ごとに「身体拘束適正化委員会」を開催し指針を徹底している。 ・職員は、職場30分研修や、毎月の虐待・身体拘束チェック表、自己点検シートによる点検で身体拘束をしないケアを実践している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。日頃から管理者は利用者・ご家族・職員の声に耳を傾け、メンタルヘルスケアに努めている。	・内部研修で年2回「身体拘束および虐待防止」について職員全員で学び、振り返り、虐待に相当する言動がないように日々のケアに反映している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物等で知識を得、ご家族から相談があった場合、制度を活用できる体制にある。している。研修の機会を持ち日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明し、理解していただいている。また、随時質問を受け付けている。解約の際も十分に理解を得ていただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に1回の家族会の開催、外部評価機関によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の生活に対する意向の聴取、また契約締結時に苦情相談機関を説明している。	・コロナ禍で家族の自由な面会は自粛しているが、利用者の日常の生活状況を書面や電話で伝え、意見・要望は書面、電話等を通じて把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、引継ぎの時間を利用して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃から職員とコミュニケーションを取るよう心掛けている。	・職員の意見・提案は、日々の会話や毎月のスタッフ会議・個人面談で把握し運営に反映している。法人の部長も巡回時（毎月）に職員の意見を聞いている。 ・職員から、行事の企画に関する提案があり、実施している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の要望は、できる限り配慮を行ったシフト作成を心掛けている。	・管理者は定期的に職員と面談し、職員の個々の努力や実績、勤務状況、熱意などを把握のうえ評価し給与に反映している。 ・シフト編成の際は職員個人の要望を可能な限り配慮している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所やGH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入職員のOJTを行っている。	・本社研修、外部研修の情報を提供して参加を促し、また毎月内部で行う「30分研修」を通して職員育成に努めている。 ・新人職員はエルダー社員から必要な知識やケア対応についてOJTで学び実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在はコロナ渦のため、リモートで交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご本人のモニタリングをし、より多くの情報を得ることで、要望、不安をくみ取り、安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にできる限りご家族に同席していただきモニタリングを行い、要望を聞きながら安心を確保できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困りごと、施設としてできることを把握し、他のサービスについての説明も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事を一緒に行ったり、生活の中で馴染んできたことや、得意なことを生かしながら、共に暮らし寄り添いながら、困ったことは一緒に考え解決できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに近況報告を行い、心身の状況や生活のご様子、本人の思いを把握して頂き、解決できないことは家族に相談し、ご協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会等は、コロナ渦にて制限、自粛のご協力いただいている。できる限り関係が途切れないよう、毎月、写真の送付と施設での状況をお伝えしている。リモート面会は実施していないため、スタッフが、玄関先での物の受け取りなど行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。 ・コロナ対応で知人や友人等の面会は禁止している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等のご利用者の得意・不得意を考慮し、分担して行っている。気の合うご利用者同士で食事を摂り、みんなで参加できるおやつ作りも試みている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のお見舞いに行ったり、退居後の行き先の相談、支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いを、一つ一つ支援する中で、生活全体で把握できるよう意識し、スタッフ間で共有化し、希望に添えるよう支援している。	・職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して、本人・家族から暮らし方の意向を聞いている。 ・意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や、入居者の行動、表情等から推測し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前にご利用者ご本人、ご家族から十分な情報を得られるよう努めている。知りえた情報は、スタッフ間で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、その様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等をスタッフ間で情報共有し現状把握に努めている。毎日のバイタルチェック、食事や水分量、排泄チェック、体重測定で健康状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ都の情報共有、医師、看護師との、相談等意見を頂き、また、ご家族や、ご本人からの意向も取り入れ反映させている。	・モニタリングを基に、職員でカンファレンスを行い、本人・家族の要望と医師、看護師の意見を反映して介護計画を作成している。 ・計画は6か月毎に見直し、状況の変化時には、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに則したチェックシートを作成し、ケアプランの妥当性を見ている。また、日々の暮らしでの気づきは個人記録に記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変わったりするので、その状況に合わせた対応ができるよう職員間で緊急にミーティングを行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる音楽会や書道教室の開催、介護相談員等の来訪は、コロナ渦のため、中止している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	メディッククリニック溝の口との医療連携により、月2回の訪問診療、毎週の訪問看護を受けている。ご希望により訪問歯科、マッサージを受けている方もいらっしゃる。	・提携医療機関の内科医をかかりつけ医とし、月4回の訪問診療を受けている。歯科は、希望者が必要に応じて訪問診療を受けている。 ・専門医への通院には、家族が付き添い、受診結果は家族から聞き申し送りノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や看護師と連携を取り、ご家族へのお話があるときには同席させていただき、退院時のことを相談させていただいている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送時に関する確認書をご説明、ご記入いただいている。御家族のご希望に添えることができるよう、スタッフ間でも共有し、訪問医との相談も行っている。	・入所時、重度化や終末期に向けた指針を、本人と家族に説明している。 ・看取り方法を家族に説明し、終末期には、医師・看護師・家族と事業所が連携して、適切な支援に努める方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り、口頭にて伝え、職員一人ひとり把握できるよう徹底する。また症状によつての対応を職場研修にて学ぶ機会をつくる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、消防署への通報やご利用者の避難誘導を行っている。現在コロナ渦にて、地域の防災訓練には参加していないが、災害時の協力依頼は継続している。	・利用者も参加して年2回 夜間想定を含め、避難訓練を実施している。 ・備蓄品(食料、備品)を略1週間分確保している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りのご利用者に聞こえるような大きな声で声掛けをしたり、トイレに誘ったりしないようにしている。ご本人の個室に入るときは、必ず声掛けを行い、一つ一つ本人の意向を確認しながら、支援に努めている。	・職員は、職場30分研修で接遇やプライバシーに関する研修を受けて対応について学び、利用者の尊厳を損ねない対応や言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を伺ったり、選択肢を提示し、ご本人に選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	することが決まられていないご利用者には職員がさりげなく促し、したいことがあるご利用者には、ご本人のペースで行っていただいている。また、スタッフは、業務優先ではなく、入居者様優先で対応するよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただくことを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物ではお好きなものを選んで頂き、お支払いも見守り内で行っている。また、普段の食事準備は盛り付け・配膳・食器洗い等得意なものを行って頂いている。朝・昼メニューはスタッフが考案しパン食や、麺類の提供も実施している。	・夕食は業者の食材、朝・昼食は職員が食材を調達し、職員が調理をしている。コロナ対応で外食は控えている。利用者から、食事への希望を聞きメニューに反映している。 ・利用者は調理、配膳、片付けを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や健康管理を行い、個々に合った食事を提供している。また、水分摂取の難しい方にはお好きな飲み物で対応させていただいたり、食事での栄養摂取が難しい場合には訪問診療医に相談をし、エンシュア等を処方していただき対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしている。歯科検診の結果によりご希望のご利用者には訪問歯科を受診していただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレで自立して排泄できるよう目指している。デイパantz使用のご利用者で失禁が少ない方は布パantzに変えたりし、身体能力に見合ったアイテムの使用を実施している。	・排泄チェック表を基に、利用者毎のパターンを把握し、時間や利用者の様子からトイレに誘導している。その結果、介護度が向上してオムツからリハパンに改善した例がある。 ・夜間は定時2回と必要に応じてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取や体操・運動等で便秘の予防に努めている。また、ご利用者一人ひとりの排泄のリズムをつかむようにしている。必要に応じ医師へ相談行い、下剤の調整も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	前もって準備できるよう、自立度の高い方には入浴予定表をお渡ししている。入浴は午前に行うことが多い。	・週2回の入浴を基本としているが、希望があれば、午前午後を問わず入浴できる。 ・入浴中、利用者は職員との会話を楽しんでいる。入浴剤、菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が日課だったり、夜遅くまで起きている生活習慣があった方にはなるべくそれに則した形で休息できるように対応させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師と連携を取り、処方薬の内容の把握に努めている。また、薬の変更があった場合には上記関係者指導のもと観察をし、職員間でも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、以前食堂で働いていた方には主に台所仕事のお手伝いをお願いしている。季節によって行事を企画して催し、毎月の誕生日には皆様でお祝いしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍により、外食の企画は中止している。個々に買い物、散歩は実施している。また、朝のラジオ体操、希望者にはペダル漕ぎも実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・天候が良い日は、職員が支援して事業所周辺を散歩して、気分転換をしている。 ・事業所内で、朝の体操やペダル漕ぎエクササイズなど、体を動かすように心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではありますが、散歩と外気浴を今後も継続すると共に、可能な限り外出の楽しみを工夫し、事業所内の体操等を含めて、気分転換と体調維持をすることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布がないことで逆に不安を感じる方もいるため、可能な限り、財布や現金を所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には電話を掛けることを支援している。携帯を持参している方もいらっしゃる。手紙の投函を代行している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、居間には行事の写真や書道教室での作品、季節を感じられるような花、手作りのタペストリーなどを飾っている。また、子供っぽくならないよう配色には注意し落ち着いた物を選別している。	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度は利用者の様子を見ながらエアコンを調節している。 ・七夕、正月など季節ごとの飾り付けをして季節感を採り入れている。 ・リビングの掃除に可能な利用者が参加し、清潔を維持している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと肘掛椅子、ソファを安全に各所に配置し、思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は、自宅で使用していたものをお持ちいただいている。仏壇を持ち込み、毎日お供えをしている方もいらっしゃる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド、クローゼット等は、事業所備え付けで、利用者は位牌や机、椅子、TV等を持ち込んで、居心地よい居室にしている。 ・居室の掃除に可能な利用者が参加し、清潔を維持している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わからない場所や備品の使い方等についての案内をしているが、それ以外はできるだけご本人のペースに合わせて行っている。		

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	モモ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・施設の理念を掲示し、職場30分研修のテーマとして取り入れたり、社内総合研修所主催の研修への参加を促したり、年に1回、全社を挙げて事例ケア発表と題し、自施設のケアを振り返り、他施設の事例・取組みから学ぶ機会がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染症対策により、自治会や近隣の行事への参加等は、自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課・地域包括・自治会・民生委員・ご家族の代表の方を招き、ご利用者の状況や行事・事故・今後の予定等を報告し、情報共有、意見交換をしていたが、コロナ渦の為、停止中。電話や、封書での意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ渦のため、リモートにて交流している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解をしている。基本的な生活を守るケアに努め、ご入居者様の状態を適切に把握し身体拘束ゼロに努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。日頃から管理者は利用者・ご家族・職員の声に耳を傾け、メンタルヘルスケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物等で知識を得、ご家族から相談があった場合、制度を活用できる体制にある。している。研修の機会を持ち日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明し、理解していただいている。また、随時質問を受け付けている。解約の際も十分に理解を得ていただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に1回の家族会の開催、外部評価機関によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の生活に対する意向の聴取、また契約締結時に苦情相談機関を説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、引継ぎの時間を利用して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃から職員とコミュニケーションを取るよう心掛けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の要望は、できる限り配慮を行ったシフト作成を心掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所やGH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入職員のOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在はコロナ渦のため、リモートで交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご本人のモニタリングをし、より多くの情報を得ることで、要望、不安をくみ取り、安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にできる限りご家族に同席していただきモニタリングを行い、要望を聞きながら安心を確保できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困りごと、施設としてできることを把握し、他のサービスについての説明も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事を一緒に行ったり、生活の中で馴染んできたことや、得意なことを生かしながら、共に暮らし寄り添いながら、困ったことは一緒に考え解決できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに近況報告を行い、心身の状況や生活のご様子、本人の思いを把握して頂き、解決できないことは家族に相談し、ご協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会等は、コロナ渦にて制限、自粛のご協力いただいている。できる限り関係が途切れないよう、毎月、写真の送付と施設での状況をお伝えしている。リモート面会は実施していないため、スタッフが、玄関先での物の受け取りなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等のご利用者の得意・不得意を考慮し、分担して行っている。気の合うご利用者同士で食事を摂り、みんなで参加できるおやつ作りも試みている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のお見舞いに行ったり、退居後の行き先の相談、支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いを、一つ一つ支援する中で、生活全体で把握できるよう意識し、スタッフ間で共有化し、希望に添えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前にご利用者ご本人、ご家族から十分な情報を得られるよう努めている。知りえた情報は、スタッフ間で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、その様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等をスタッフ間で情報共有し現状把握に努めている。毎日のバイタルチェック、食事や水分量、排泄チェック、体重測定で健康状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ都の情報共有、医師、看護師との、相談等意見を頂き、また、ご家族や、ご本人からの意向も取り入れ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに則したチェックシートを作成し、ケアプランの妥当性を見ている。また、日々の暮らしでの気づきは個人記録に記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変わったりするので、その状況に合わせた対応ができるよう職員間で緊急にミーティングを行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる音楽会や書道教室の開催、介護相談員等の来訪は、コロナ渦のため、中止している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	メディックスクリニック溝の口との医療連携により、月2回の訪問診療、毎週の訪問看護を受けている。ご希望により訪問歯科、マッサージを受けている方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や看護師と連携を取り、ご家族へのお話があるときには同席させていただき、退院時のことを相談させていただいている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送時に関する確認書をご説明、ご記入いただいている。御家族のご希望に添えることができるよう、スタッフ間でも共有し、訪問医との相談も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り、口頭にて伝え、職員一人ひとり把握できるよう徹底する。また症状によつての対応を職場研修にて学ぶ機会をつくる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、消防署への通報やご利用者の避難誘導を行っている。現在コロナ渦にて、地域の防災訓練には参加していないが、災害時の協力依頼は継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りのご利用者に聞こえるような大きな声で声掛けをしたり、トイレに誘ったりしないようにしている。ご本人の個室に入るときは、必ず声掛けを行い、一つ一つ本人の意向を確認しながら、支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を伺ったり、選択肢を提示し、ご本人に選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	することが決まられていないご利用者には職員がさりげなく促し、したいことがあるご利用者には、ご本人のペースで行っていただいている。また、スタッフは、業務優先ではなく、入居者様優先で対応するよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただくことを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物ではお好きなものを選んで頂き、お支払いも見守り内で行っている。また、普段の食事準備は盛り付け・配膳・食器洗い等得意なものを行って頂いている。朝・昼メニューはスタッフが考案しパン食や、麺類の提供も実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や健康管理を行い、個々に合った食事を提供している。また、水分摂取の難しい方にはお好きな飲み物で対応させていただいたり、食事での栄養摂取が難しい場合には訪問診療医に相談をし、エンシュア等を処方していただき対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしている。歯科検診の結果によりご希望のご利用者には訪問歯科を受診していただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレで自立して排泄できるよう目指している。デイパantz使用のご利用者で失禁が少ない方は布パantzに変えたりし、身体能力に見合ったアイテムの使用を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取や体操・運動等で便秘の予防に努めている。また、ご利用者一人ひとりの排泄のリズムをつかむようにしている。必要に応じ医師へ相談行い、下剤の調整も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	前もって準備できるように、自立度の高い方には入浴予定表をお渡ししている。入浴は午前に行うことが多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が日課だったり、夜遅くまで起きている生活習慣があった方にはなるべくそれに則した形で休息できるように対応させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師と連携を取り、処方薬の内容の把握に努めている。また、薬の変更があった場合には上記関係者指導のもと観察をし、職員間でも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、以前食堂で働いていた方には主に台所仕事のお手伝いをお願いしている。季節によって行事を企画して催し、毎月の誕生日には皆様でお祝いしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦により、外食の企画は中止している。個々に買い物、散歩は実施している。また、朝のラジオ体操、希望者にはペダル漕ぎも実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布がないことで逆に不安を感じる方もいるため、可能な限り、財布や現金を所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には電話を掛けることを支援している。携帯を持参している方もいらっしゃる。手紙の投函を代行している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、居間には行事の写真や書道教室での作品、季節を感じられるような花、手作りのタペストリーなどを飾っている。また、子供っぽくならないよう配色には注意し落ち着いた物を選別している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと肘掛椅子、ソファを安全に各所に配置し、思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は、自宅で使用していたものをお持ちいただいている。仏壇を持ち込み、毎日お供えをしている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わからない場所や備品の使い方等についての案内をしているが、それ以外はできるだけご本人のペースに合わせて行っている。		

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	スマレ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・施設の理念を掲示し、職場30分研修のテーマとして取り入れたり、社内総合研修所主催の研修への参加を促したり、年に1回、全社を挙げて事例ケア発表と題し、自施設のケアを振り返り、他施設の事例・取組みから学ぶ機会がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染症対策により、自治会や近隣の行事への参加等は、自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課・地域包括・自治会・民生委員・ご家族の代表の方を招き、ご利用者の状況や行事・事故・今後の予定等を報告し、情報共有、意見交換をしていたが、コロナ渦の為、停止中。電話や、封書での意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在コロナ渦のため、リモートにて交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解をしている。基本的な生活を守るケアに努め、ご入居者様の状態を適切に把握し身体拘束ゼロに努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマとして取り入れ、学ぶ機会を持っている。日頃から管理者は利用者・ご家族・職員の声に耳を傾け、メンタルヘルスケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物等で知識を得、ご家族から相談があった場合、制度を活用できる体制にある。している。研修の機会を持ち日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明し、理解していただいている。また、随時質問を受け付けている。解約の際も十分に理解を得ていただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の生活状況報告書への返信、半年に1回の家族会の開催、外部評価機関によるアンケート、ケアプラン作成時のご利用者及びご家族の生活に対する意向の聴取、また契約締結時に苦情相談機関を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、引継ぎの時間を利用して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃から職員とコミュニケーションを取るよう心掛けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようにしている。職員の要望は、できる限り配慮を行ったシフト作成を心掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所やGH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入職員のOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他ホームの管理者や職員と現在はコロナ渦のため、リモートで交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご本人のモニタリングをし、より多くの情報を得ることで、要望、不安をくみ取り、安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にできる限りご家族に同席していただきモニタリングを行い、要望を聞きながら安心を確保できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困りごと、施設としてできることを把握し、他のサービスについての説明も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事を一緒に行ったり、生活の中で馴染んできたことや、得意なことを生かしながら、共に暮らし寄り添いながら、困ったことは一緒に考え解決できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機会あるごとに近況報告を行い、心身の状況や生活のご様子、本人の思いを把握して頂き、解決できないことは家族に相談し、ご協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会等は、コロナ渦にて制限、自粛のご協力いただいている。できる限り関係が途切れないよう、毎月、写真の送付と施設での状況をお伝えしている。リモート面会は実施していないため、スタッフが、玄関先での物の受け取りなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等のご利用者の得意・不得意を考慮し、分担して行っている。気の合うご利用者同士で食事を摂り、みんなで参加できるおやつ作りも試みている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のお見舞いに行ったり、退居後の行き先の相談、支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いを、一つ一つ支援する中で、生活全体で把握できるよう意識し、スタッフ間で共有化し、希望に添えるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前にご利用者ご本人、ご家族から十分な情報を得られるよう努めている。知りえた情報は、スタッフ間で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、その様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等をスタッフ間で情報共有し現状把握に努めている。毎日のバイタルチェック、食事や水分量、排泄チェック、体重測定で健康状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ都の情報共有、医師、看護師との、相談等意見を頂き、また、ご家族や、ご本人からの意向も取り入れ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに則したチェックシートを作成し、ケアプランの妥当性を見ている。また、日々の暮らしでの気づきは個人記録に記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況が変わったりするので、その状況に合わせた対応ができるよう職員間で緊急にミーティングを行うこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる音楽会や書道教室の開催、介護相談員等の来訪は、コロナ渦のため、中止している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	メディッククリニック溝の口との医療連携により、月2回の訪問診療、毎週の訪問看護を受けている。ご希望により訪問歯科、マッサージを受けている方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や看護師と連携を取り、ご家族へのお話があるときには同席させていただき、退院時のことを相談させていただいている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送時に関する確認書をご説明、ご記入いただいている。御家族のご希望に添えることができるよう、スタッフ間でも共有し、訪問医との相談も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り、口頭にて伝え、職員一人ひとり把握できるよう徹底する。また症状によつての対応を職場研修にて学ぶ機会をつくる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、消防署への通報やご利用者の避難誘導を行っている。現在コロナ渦にて、地域の防災訓練には参加していないが、災害時の協力依頼は継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りのご利用者に聞こえるような大きな声で声掛けをしたり、トイレに誘ったりしないようにしている。ご本人の個室に入るときは、必ず声掛けを行い、一つ一つ本人の意向を確認しながら、支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を伺ったり、選択肢を提示し、ご本人に選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	することが決まられていないご利用者には職員がさりげなく促し、したいことがあるご利用者には、ご本人のペースで行っていただいている。また、スタッフは、業務優先ではなく、入居者様優先で対応するよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えていただくことを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物ではお好きなものを選んで頂き、お支払いも見守り内で行っている。また、普段の食事準備は盛り付け・配膳・食器洗い等得意なものを行って頂いている。朝・昼メニューはスタッフが考案しパン食や、麺類の提供も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や健康管理を行い、個々に合った食事を提供している。また、水分摂取の難しい方にはお好きな飲み物で対応させていただいたり、食事での栄養摂取が難しい場合には訪問診療医に相談をし、エンシュア等を処方していただき対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしている。歯科検診の結果によりご希望のご利用者には訪問歯科を受診していただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレで自立して排泄できるよう目指している。デイパantz使用のご利用者で失禁が少ない方は布パantzに変えたりし、身体能力に見合ったアイテムの使用を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取や体操・運動等で便秘の予防に努めている。また、ご利用者一人ひとりの排泄のリズムをつかむようにしている。必要に応じ医師へ相談を行い、下剤の調整も行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	前もって準備できるように、自立度の高い方には入浴予定表をお渡ししている。入浴は午前に行うことが多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が日課だったり、夜遅くまで起きている生活習慣があった方にはなるべくそれに則した形で休息できるように対応させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師と連携を取り、処方薬の内容の把握に努めている。また、薬の変更があった場合には上記関係者指導のもと観察をし、職員間でも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、以前食堂で働いていた方には主に台所仕事のお手伝いをお願いしている。季節によって行事を企画して催し、毎月の誕生日には皆様でお祝いしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦により、外食の企画は中止している。個々に買い物、散歩は実施している。また、朝のラジオ体操、希望者にはペダル漕ぎも実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布がないことで逆に不安を感じる方もいるため、可能な限り、財布や現金を所持して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には電話を掛けることを支援している。携帯を持参している方もいらっしゃる。手紙の投函を代行している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、居間には行事の写真や書道教室での作品、季節を感じられるような花、手作りのタペストリーなどを飾っている。また、子供っぽくならないよう配色には注意し落ち着いた物を選別している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと肘掛椅子、ソファを安全に各所に配置し、思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は、自宅で使用していたものをお持ちいただいている。仏壇を持ち込み、毎日お供えをしている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わからない場所や備品の使い方等についての案内をしているが、それ以外はできるだけご本人のペースに合わせて行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ川崎稲田堤

作成日 令和3年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在、コロナ禍により運営推進会議が開催出来ていない。	2ヶ月に1回、開催出来る	運営推進会議、議事録郵送し、施設運営状況報告を行っている。	2か月
2	3	地域交流室の活用	コロナ禍終息後、地域で在宅介護をされている方の相談窓口	掲示板などを活用	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。